

関本 昌平
(ピアノ)

川久保 賜紀
(ヴァイオリン)

横坂 源
(チェロ)

©Yuji Hori

©ワーナーミュージック・ジャパン

2019 大協奏曲

～次世代を担う未来の巨匠たち～

ハイドン：チェロ協奏曲 第1番 ハ長調 Hob.VIIb:1 (Vc:横坂 源)
チャイコフスキー：ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 op.35 (Vn:川久保 賜紀)
ラフマニノフ：ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 op.18 (Pf:関本 昌平)

山下一史 (指揮)
日本センチュリー交響楽団 (管弦楽)

2019 1.6 (日) 2:00PM開演 (1:00PM 開場)
S席 6,480円 A席 5,400円 B席 4,320円(税込)

ザ・シンフォニーホール

©s.yamamoto

【ご予約・お問合せ】

■ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333 (10:00~18:00 火曜定休) <http://www.symphonycorner.jp>

発売日 2018年7月29日(日)10:00~
[Sinfonia会員先行 7月26日(木)10:00~]

【プレイガイド】

■チケットぴあ 0570-02-9999 [Pコード:117-418] ■e+ (イープラス) <http://eplus.jp/symphonycorner> (パソコン・携帯)

■ローソンチケット 0570-084-005 [Lコード:52501] 0570-000-407 (オペレーター対応 10:00~20:00)

※未就学児のご入場は御遠慮いただいております。※やむを得ない事情により、出演者、曲目等が変更になる場合がございます。予めご了承ください。

主催：The Symphony Hall



3 2019 大協奏曲

～次世代を担う未来の巨匠たち～

新年のザ・シンフォニーホールで、世界が認める3人の俊英がコンチェルトに挑む。

ミュンヘン国際コンクール第2位を獲得した横坂源は、知性派チェリスト、ジャン＝ギアン・ケラスの愛弟子。ハイドンマラソンに取り組む日本センチュリー交響楽団とのハイドン作品の共演は、実に興味深い。川久保賜紀は、世界のトップ・アーティストからも絶賛される類い稀な才能の持ち主。チャイコフスキー国際コンクール第2位を受賞した彼女が演奏するチャイコフスキーの協奏曲は必聴だ。そして、ショパン国際コンクール入賞者の関本昌平は、堅実な演奏活動を続ける。揺るぎない作品の構築と深い翳りを帯びた関本の音楽は、重い叙情性を湛えたラフマニノフの協奏曲に相応しい。経験豊かな山下一史のタクトは、3人の若き名手の個性を引き立ててくれるであろう。

文：道下京子

関本 昌平 [ピアノ]



2005年、20歳でフルシャワのショパン国際ピアノコンクール第4位入賞。パリ・エコール・ノルマル音楽院卒業。桐朋学園大学ソリスト・ディプロマコースを経て渡米。ピティナ・ピアノコンペティション特級グランプリおよび

第1回福田靖子賞受賞。第5回浜松国際ピアノコンクール第4位、第15回ショパン国際ピアノコンクール第4位、第5回モロッコ国際音楽コンクール優勝。ヴェルビエ音楽祭アカデミーコンサート(スイス)、アニマート音楽祭(パリ)、NYカーネギーホールでのコンサート等に出演。CD「ショパン」「ブラームス」をリリース。これまでに、稲垣千賀子、M.ヴォスクレセンスキー、二宮裕子の各氏に師事。現在、金城学院大学及び菊里高校非常勤講師、名古屋音楽大学特任准教授。

川久保 賜紀 [ヴァイオリン]



2001年サラサーテ国際ヴァイオリン・コンクール優勝、2002年チャイコフスキー国際音楽コンクール・ヴァイオリン部門最高位受賞以来、若くして、主要な北米オーケストラと共演し、豊富なステージ経験を積む。

日本へは1997年、チョン・ミョンフン指揮アジア・フィルのソリストとしてデビュー。以後、国内外様々なオーケストラと共演を重ね、高度な技術と作品の品位を尊ぶ深い音楽性に高い評価を得ている。近年は自ら企画するコンサートを行うなど、コンサート・プロデューサーとしての才能も発揮、リサイタルだけではなく室内楽にも積極的に取り組み、究極のアンサンブルを追求し続けている。後進の指導にも積極的に取り組み、2018年より桐朋学園大学院(富山校)大学教授に就任。

川久保 賜紀オフィシャル・ウェブ・サイト
<http://www.tamakikawakubo.com/>

横坂 源 [チェロ]



桐朋学園女子高等学校(男女共学)、同ソリストディプロマ・コースを経て、シュツットガルト国立音楽大学、並びにフライブルク国立音楽大学で研鑽を積む。13歳で東京交響楽団と協演したのを皮切りに、

国内外主要オーケストラと多数共演。15歳で全日本ビバホール・チェロコンクール最年少優勝受賞、2010年ミュンヘン国際音楽コンクール第2位。出光音楽賞、齋藤秀雄メモリアル基金賞、ホテルオークラ音楽賞など多数受賞。ラ・フォル・ジュルネ TOKYO、東京・春・音楽祭、武生国際音楽祭等に、ソリスト、室内楽奏者として多数出演。これまでに、鷲尾勝郎、毛利伯郎、ジャン＝ギアン・ケラスの各氏に師事。

山下一史 [指揮]

桐朋学園大学を卒業後、ベルリン芸術大学に留学、1986年ニコライ・マルコ国際指揮者コンクールで優勝。カラヤンが亡くなるまで彼のアシスタントを務める。以後ヨーロッパでの実績を重ね、ヘルシンボリ響首席客演指揮者を務めた。日本国内ではN響を指揮してデビュー、以後主要オーケストラに定期的に出演、好評を得ている。アンサンブル金沢プリンシパル・ゲスト・コンダクター、九響常任指揮者、仙台フィル正指揮者などを歴任。また、シューマン：歌劇「ゲノフェーファ」日本舞台初演も果たすなど、オペラ、オーケストラの両面において注目を浴びている。東京藝術大学音楽学部指揮科教授。2016年4月より千葉交響楽団音楽監督を務めている。



日本センチュリー交響楽団 [管弦楽]

日本センチュリー交響楽団は1989年に活動を開始し、現在は50名のメンバーが在籍。飯森範親が首席指揮者を務め、多彩な活動を行っている。ザ・シンフォニーホールでのシンフォニー定期演奏会、ハイドンの交響曲全曲演奏・録音プロジェクト「ハイドンマラソン」を展開中のいずみ定期演奏会、豊中市立文化芸術センターでの名曲シリーズに加え、ジャンルを超えた新たな形態のコンサートにも積極的に取り組む。オーケストラ体感コンサート「タッチ・ジ・オーケストラ」、ユースオーケストラの運営といった教育プログラム、「豊中まちなかクラシック」(豊中市)、「ルシオール街かどコンサート」(滋賀県守山市)等の地域連携事業にも力を入れている。

オフィシャル・ホームページ <http://www.century-orchestra.jp/>

